

指導の心は親心！

<保護者面談に向けて②>

今年度の入学式後のPTA入会式のあいさつで、私は次のような内容のことを新入生(1年生)保護者の皆様にお願ひしました。

「これから、様々な場面で、担任や部活動の顧問をはじめとする学校の職員や、もちろん私校長に対しても、また学校そのものに、不満を抱いたり、納得がいけないことが出てくることもあるかもしれません。文句の一つも言いたくなるようなことが起こるかもしれません。でも、自分のお子さんが聞いているところでは、我々教職員の悪口や学校への不平・不満を絶対に言わないでいただきたい。私たちと生徒との信頼関係の構築を困難とする危険性が大きく、最終的に子どもたちに不利益をもたらします。

もちろん、私ども教職員は100%の存在ではありません。至らないところや不適切なことがあれば、どんな批判をも真摯に受け止めながら、誠意を尽くして対応し、よりよい方向に努力していきたいと考えます。一方で、どう考えても理不尽な要求等には応えることはできない場合もあります。事実の確認、教職員の指導や学校の方針等に疑問や納得がいけない点があれば、その信頼関係の土台は、相互のコミュニケーションしかないと考えます。気になることがあれば、お互い冷静に相談できる信頼関係をめざしましょう。」

さて、7月24(月)日から保護者会(保護者面談)を予定しています。私も二人の子をもつ親として、子どもの保護者面談に出席したことが何度かありました。十年以上も前のこと、「もう二度と出席したくない。次からは母さんが必ず行って。」と妻に告げたことがあります。

私の息子は決して、「いい子」ではなかったもので、ある程度は覚悟して臨みましたが、面談の最初から最後まで、担任の先生からは、あそこがダメ、ここがダメ、のダメ出しのオンパレード。私よりも教職経験が短い年下の先生相手に、ずっと平身低頭「ご迷惑をかけていてすみません。」と恐縮しながら、「家に帰って、よく子どもに言って聞かせます。」と学校を後にしました。

帰宅して、子どもには具体的に注意された内容を伝えて、こう言いました。「いい先生じゃないか。お前のことをよく見ているよ。」でも、本当のことを言えば、正直嫌な気分でした。

前述の理由もさることながら、同業者であるからこそ、子どもの前で先生や学校の悪口を言ったことは一切ないと断言できます。でも、今でも後悔してい

るのは、あの時その場で、なぜ次のように言わなかったのかと。

「先生、うちの子はそんなにダメなんですか。でも、至少くらは良いところもあるんじゃないのですか。ぜひ、それを聞かせてください。」と。

まあ、我が子がでたらめなのは百も承知しているし、そういう風に育てしまったのは我々親の責任なのだから仕方ありません。でも、親から見れば、あきれほどだらしなくてズボラでお調子者極まりないけど、底抜けに明るくて、友だちもたくさんいるし、人が嫌がることなど絶対やらない子なのにあんな言われ方をして。親として、子どもの名誉を守ってやれず、何て情けない父親だろう、と思ったものです。

子どもは褒められるために学校に来ているのだと思います。子どもは幸せになるために学校に来ているはず。かといって、教師として、心無い行為や他人に迷惑をかける言動を見過ごしてはなりません。言うべきことは、はっきりきっちりと親御さんにも伝えなければならぬ時もあります。でも、先生方にはぜひ、自分の子をオンリーワンと思うその子の親になったつもりで、保護者に向き合ってほしいのです。

一方で、保護者は、時には耳の痛いことを言われることも覚悟してください。子どもには、ダメな部分を直して、人の迷惑になるようなことをしないで、だれからも愛され・励まされ・応援されるような人間になってほしいのです。

二中の先生方は、子どもをととても大切にしてくれる先生方ばかりだと確信しています。特に担任は学校での親代わりです。その“親心”を理解しながら、保護者は担任と向き合ってほしいのです。

要は、何のための保護者面談なのか。「教育」は「共育」なのです。教師と親が、子どもを中心において、共に語り合い、共に悩み合い、共に考え合える貴重な機会にしてほしいと思います。支持的風土が必要なのは学級集団や学年集団ばかりではありません。教師と親こそ、学校と家庭こそ、認め合い、助け合い、支え合う関係が何より重要だと考えます。

そのダメな我が子も既に成人して何年も経ちます。久しぶりに一人暮らしの東京のアパートを訪ねました。社会人だというのに、散乱した衣服やゴミの山で足の踏み場もない様子にあきれて、小言を何度も繰り返すと、

「父さん、そう言えば俺が中学生の頃、保護者面談で担任の先生から『毎日のようにいつも脱ぎ放しの学生服やYシャツを教室の床に放り投げたまま体操服で帰るんで困ってます。』と言われたと聞いて、俺にマジギレしてたよね。まあ、人間そんなに簡単に変わらないよ。」

「俺がキレた？いつも俺は沈着冷静だよ。その時だって、お前に諭すように静かに語りかけて注意したはずだけど。でも、この状態を見れば、あの先生が言っていたことは本当に正しかったね。いい加減どうにかしろよ。」

そう、確かに息子の記憶の方が正しいのです。私はマジギレしていました。でも、事実誤認があります。(息子よ、俺が本当にマジギレしていた相手はおまえじゃない。担任の先生に対してだよ。俺も教師である以前に親なんだ。)